

1. **大課題名** III 環境保全を配慮した生産技術の評価・確立
2. **課題名** 緑肥のすき込み方法によるネギハモグリバエとネギ白絹病の防除効果検証
3. **試験担当機関** 石川県農林総合研究センター農業試験場生産環境研究部
・**担当者名** 尾山智洋 西澤歩南
4. **実施期間** 令和7年度～令和8年度、新規
5. **試験場所** 石川県農林総合研究センター農業試験場内の圃場（約4a）

6. 成果の要約

令和8年度の試験実施に向けて、汚染圃場の作成と緑肥の作付けを行った。

7. 目的

石川県では、環境保全型農業を推進しているところだが、園芸作物の防除は大半が化学農薬に依存しており、さらには近年の異常気象等により病害虫の発生は増加、長期化している。特に、白ねぎではネギハモグリバエと白絹病の被害が増加しており、これらの病害虫を環境への負荷を抑えつつ、効果的かつ省力的に防除するにはIPMの実践が重要である。

これまでに緑肥作物であるカラシナは、細断によりアリルイソチオシアネート（AITC）と呼ばれるガスを発生し、それをすき込むことにより土壌病害やセンチュウに防除効果があることが確認されている。そのため、カラシナを輪作することによりネギハモグリバエと白絹病の発生抑制が期待できる。

しかし、緑肥のすき込みには多くの場合、細断後にロータリー等を用いるが、AITCは揮発性が高いため、細断からすき込みまでの間にガスが揮散してしまう懸念がある。

そこで、細断とすき込みを同時に作業可能なディスクロータリーを用いてガスの揮散性や防除効果への影響について検証を行う。

8. 主要成果の概要及び考察

—

9. 問題点と次年度の計画

供試機械を用いて、カラシナの細断、すき込み同時処理による防除効果を検証する。

10. 主なデータ

—

